

第1章 舞鶴市の図書館のいま

○ 舞鶴市の図書館のいまを知るための取り組み

1-1 舞鶴市の環境、くらし、まちづくりと図書館

- ① 舞鶴市立図書館の成り立ちと沿革
- ② 舞鶴市の居住分布/変化動向と図書館
- ③ 舞鶴市民の移動手段/公共交通
- ④ 公共公益施設/商業施設の分布とくらし
- ⑤ 地域や町別に見た図書館の利用傾向

1-2 舞鶴市の図書館サービスのいま

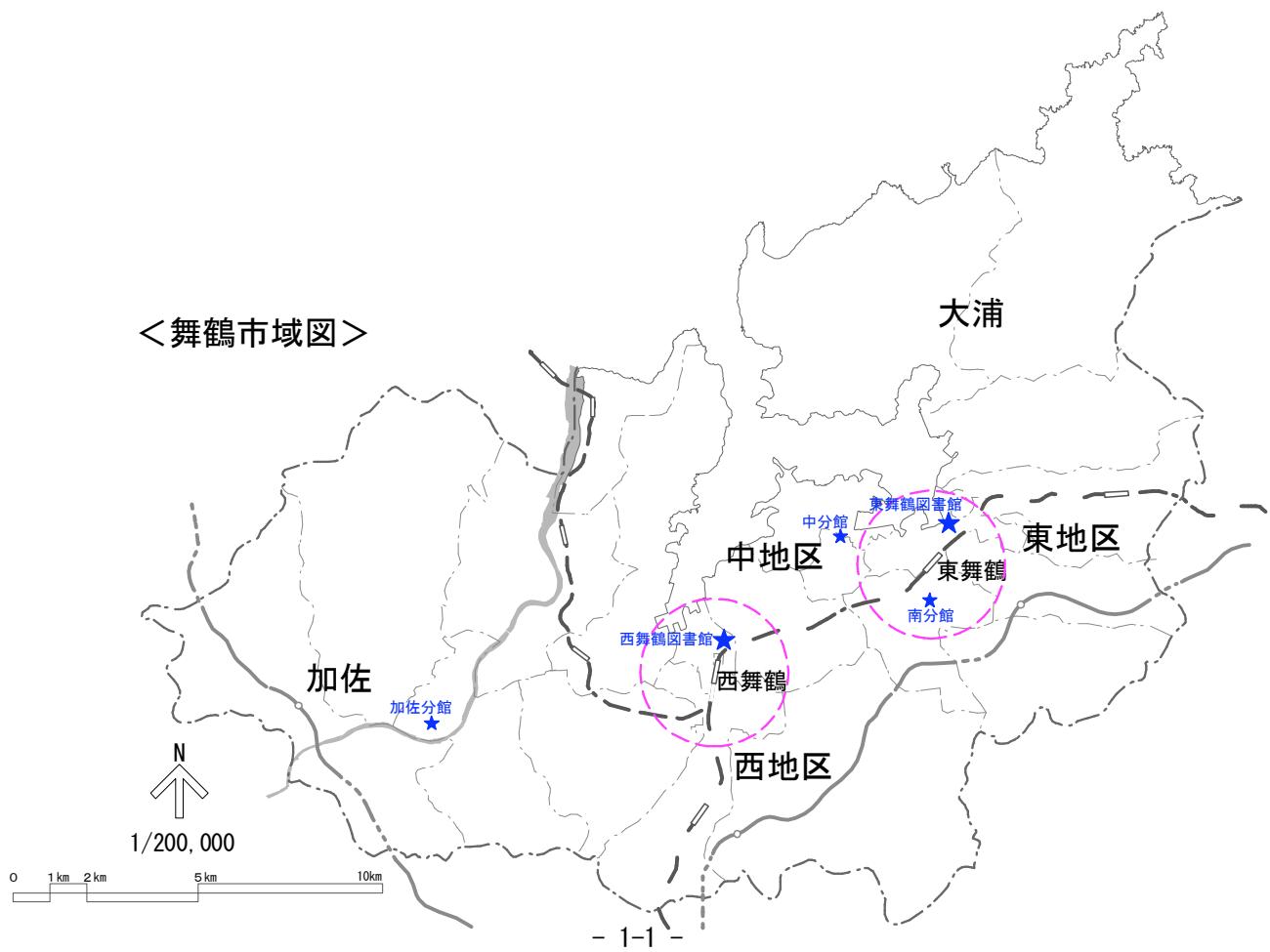
- ① 東・西図書館と中・南・加佐3分館を知る
- ② 図書館と類縁施設を知る
- ③ 舞鶴市の小・中学校と学校図書館を知る
- ④ 「必要課題」と「要求課題」を考える

※ これまで蓄積された調査や、この度の聞き取り面談記録が審議会に参考資料として提供された。これらは巻末の資料編にまとめた。

1-3 これまでの図書館サービスとその課題

- ① 日本(各都市)の図書館サービスの到達点とその指標
- ② 年間50万冊貸出し44都市の図書館政策を比較する
- ③ 舞鶴市の図書館のサービスと施設の課題を考える

<舞鶴市域図>

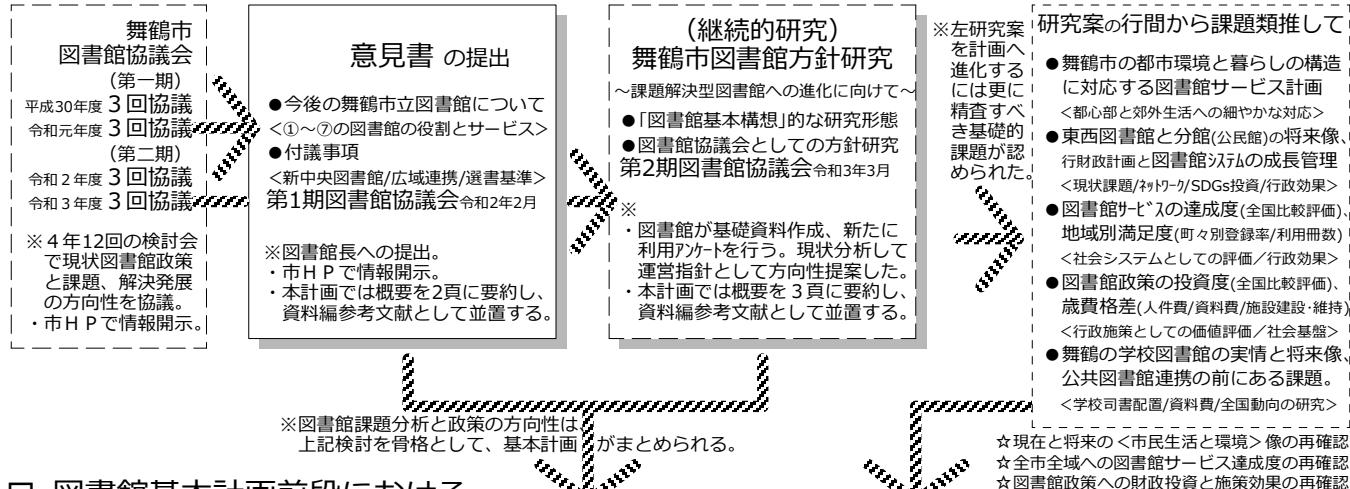


1-0 舞鶴市の図書館のいまを知るための取り組み

舞鶴市の図書館と図書館協議会は、この基本計画に先立ち、図書館の課題と解決の方向性を、調査研究してきました。基本計画では初年度に、都市計画的視点かつ図書館政策的視点の追加的協議を重ね「いまと課題」を再確認しました。審議会体制とした次年度は、課題解決のために4つの計画の柱(仮説)に協議を収斂させ、基本計画をまとめています。

□これまでの図書館政策の評価分析・研究経緯

■基本計画策定準備部会「検討チャート」

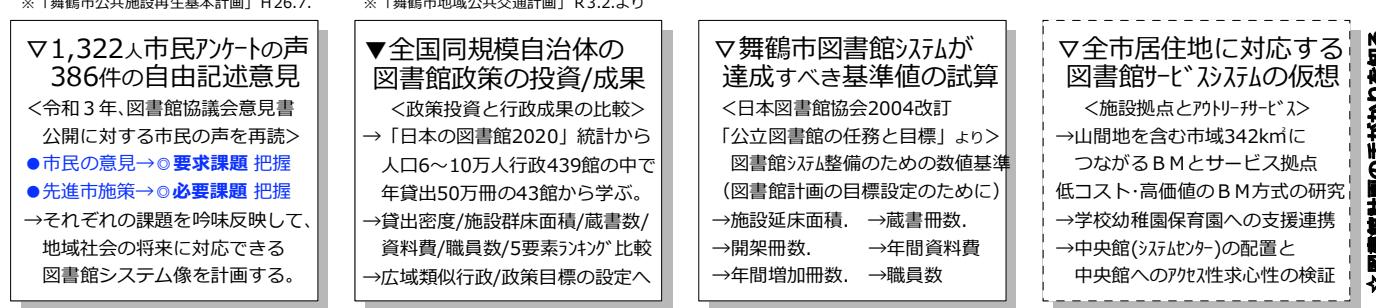
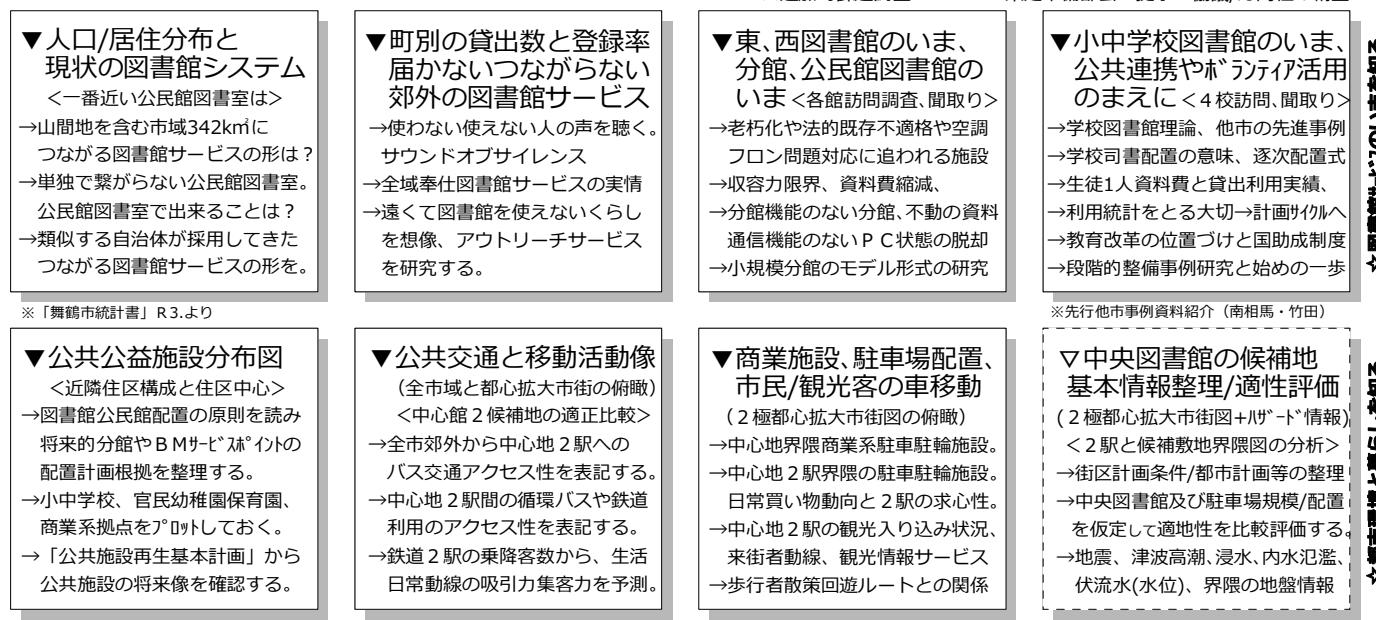


□図書館基本計画前段における

舞鶴市図書館協議会

基本計画 策定準備部会による計画方針の補足検討

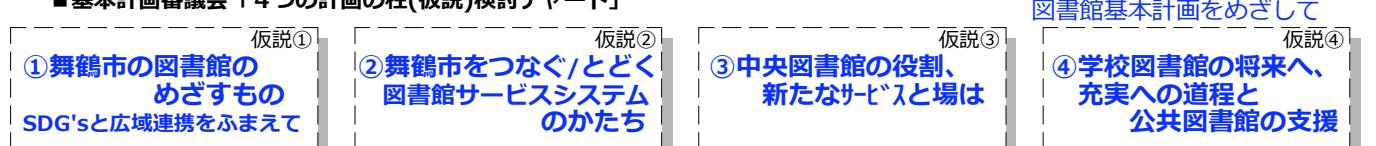
※追加的課題調査→I.II.III.策定準備部会へ提示→協議/方向性の精査



□図書館基本計画審議会の協議と答申へ

■基本計画審議会「4つの計画の柱(仮説)検討チャート」

建物や建設のことではなく、
→社会システムデザインとしての
図書館基本計画をめざして



1-1-① 舞鶴市立図書館の成り立ちと沿革

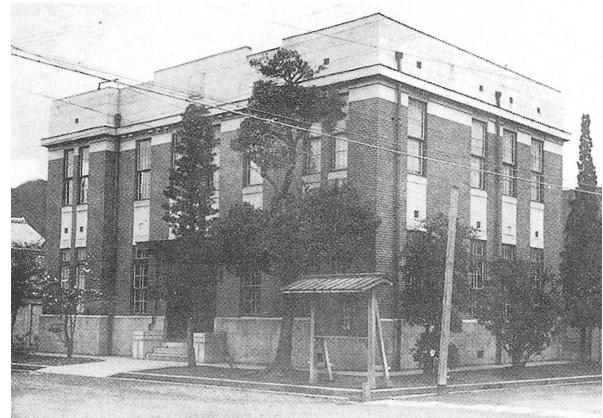
□舞鶴市立図書館の成り立ち

舞鶴の図書館は、明治45年、明倫高等尋常小学校に校長や教員が図書を収集整理し、舞鶴町民の利用に供したことから始まりました。昭和2年に、図書館は元舞鶴税務署であった建物に移転しますが、土地建物の払い下げにあたり、舞鶴出身の篤志家である有本國蔵氏が舞鶴町に多額の寄付をされています。

舞鶴町長・市長を歴任した水島彦一郎氏の著書『有本國藏翁』に、図書館の移転前後のことが記載されています。

『舞鶴図書館の寄付

敷地建物諸設備まで 地方にめずらしい立派な図書館として文部省より選奨される。』 昭和6年



旧舞鶴市立西図書館。
図書館移転後は舞鶴商工会館として使用された。

しかし、かねてより本翁に対する税務署跡の土地建物買収寄付の要請について、は善書社への出資早々であるから、我々も其の依頼を躊躇しておつたが、幸い親戚の舞鶴の近藤久兵衛・先代児玉重三郎・故伏木蔵の三氏及び、京都原本店の近藤保之亮氏等が、私の希望を入れて多いに斡旋するところとなり、遂に京阪の両有本氏の快諾を得て寄付を受けることになったのである。

すなはち、有本翁はそのために舞鶴に出で、暫して、実地調査をされたが、その結果は前年に新築して僅か二年の後、若槻内閣の時、某の理不尽たる両丹税務署整理の美名による悪策の犠牲となつて、廃止せられた舞鶴税務署の跡であつて極めて新しい洋館二階建ての恰好のもので、鉄筋コンクリートの帳簿庫さえ附属しており、敷地と共に喜んでお申し�込みに応じるだけでなく、京都の嘉兵衛にも私から話して無論承知させる、とて大いに乗っ取りになり、この上は大阪の税務監督局で廉価払い下げを受けてくれとの事であるから、数万円（当時の原価はするであろう。

ブル、椅子、書棚や書庫内の書架を整え、おまけに図書室をもう造って、しあわいきしに相談しておいでください。』と云われた。

そこで、私は『両校のストーブは年々の問題であるが、何分町費多端のため、話が成り立たず今日になつてゐる。しかも雪国の寒い冬をストーブなしで、一教室一個の火鉢だけで、可愛い二千人の児童が辛抱しているのです』と言つて、翁は『かわいに顔を曇らせて

可愛そうに、そうですか。それは是非買うてやつてください。』と

自分の幼少時一年歳で審致会の丁稚となり、水汲み清け物切りに手足のあかぎれを切らした當時を思い出したとて、即座に快諾された。

現在図書館の蔵書は、七千五百十六冊で、昭和十一年の閲覧者は、一万四千九百九十六人の多數により創立後三年の昭和五年の閲覧者数四千六百二人で比較すると、^{正しく}百二人に及ぶ勢で、如何にこの事業が地方多年の要望に適うっているかと知ることができる。しかもこれはひとり舞鶴町だけの為ではないから、今では加佐郡内は素り何鹿と謝その他の諸地方から、篤学の青年が次第に来るようになつてゐる。

而して本館の開館当時より、司書として多年尽瘁した島田孝次氏が物故し、いまは井孝達氏が司書として、綿密にして親切なる図書の整理・貸出にあたられ、今や地方の教育機関としてかくことの出来ないものになつてゐる。けだし学資無くて勉強する青年男女に、寄与しようとする両有本氏の希望は、このようにして年々報いられ、次第に大きな光を放つて行くのである。

われわれおおいでよろしく同局へ行き、いろいろ陳情の結果、使用目的を斟酌して充分廉価にされ、遂に二万千百三十六円五十五銭で払い下さげられたのである。
その時、同局においていろいろと懇意に取り扱られた。

それを見て私はしみじみ翁の純情に感激しました次第です。※

□舞鶴市立図書館の沿革

- 明治45年 5月 舞鶴明倫尋常高等小学校附属町立図書館として開設。
- 昭和2年 8月 新築移転（元舞鶴税務署）。舞鶴町立舞鶴図書館と改称。
- 13年 8月 市制施行に伴い、市立舞鶴図書館と改称。
- 21年 9月 東第二公会堂内（現東遺族会館部分・元海光会建物…浜）に市立東図書館開設。同館開設に伴い、市立舞鶴図書館を市立西図書館と改称。
- 26年 3月 市立東図書館中分館開設。
- 31年 5月 市立東図書館を東公会堂内（元舞鶴海軍館参考品陳列館部分…溝尻）に移転。
- 43年10月 市立西図書館を市民会館2階に移転。市立東図書館南分館開設。
- 47年 3月 市立西図書館加佐分館開設。
- 平成元年 4月 市立東図書館を現住所に新築。（4/21業務開始）
- 2年12月 市立西図書館を現住所に新築移転。（12/12業務開始）
- 3年 3月 市立東図書館電算機稼働。（3/24）
- 4年10月 市立西図書館電算機稼働。（10/1）
- 9年 3月 市立東・西図書館コンピュータ・オンラインシステム稼働。
(3/21)
- 13年 2月 市立西図書館書庫改築。
- 13年 3月 市立東図書館中分館を現住所に新築の舞鶴市中総合会館内に移転。
(3/12業務開始)
- 14年 2月 市立東図書館書庫改築。
- 3月 京都府図書館総合目録ネットワークに加入。（3/1）
- 15年 6月 インターネット予約開始。（6/1）
- 22年 3月 市立東・西図書館システム更新、ホームページ開設。
携帯電話からの検索・予約サービス開始。（3/19）
- 23年12月 市立西図書館駐車場整備工事。（10/3～12/9）
- 25年10月 市立東図書館の休館日を木曜日に、及び時間延長日を金曜日に変更。
東・西図書館の図書整理のため休館する日を変更。
- 28年 3月 市立東・西図書館システム更新。
オンプレミス型からクラウド型へ切り替え。（3/18）
- 29年 4月 市立東・西図書館において祝日の開館日を拡大。これにより、
どちらかの図書館が開館している年間の日数は356日となる。
- 30年 4月 舞鶴市図書館協議会を設置。（4/1）
- 京都府北部7市町（舞鶴市、福知山市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）において、図書館の広域利用を開始。（4/1）
- 令和2年 3月 舞鶴市図書館条例の一部改正。（舞鶴市教育に関する事務の職務权限の特例に関する条例）（3/30）
- 11月 市立東・西図書館において雑誌スポンサー制度を導入。（11/1）
図書館アンケートを実施。（11/28～12/20）
- 令和3年11月 令和3年度 第3回舞鶴市図書館協議会
第1回舞鶴市図書館基本計画策定準備部会 開催（11/11）
- 令和4年 9月 舞鶴市図書館基本計画 策定

1-1-② 舞鶴市の居住分布/変化動向と図書館

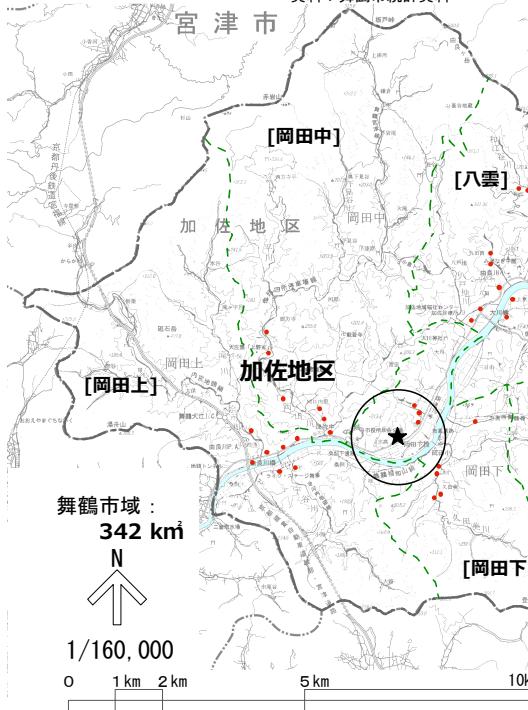
□舞鶴市の地域／町環境の構成と居住のようす

舞鶴市は、広域な市域342km²に約8.1万人(令和2年)が居住しています。東西2極の中心市街地に人口が密集し、郊外に居住地区が広く分散した都市構造を形成しています。また、近隣住区コミュニティとしては下表下図のように4地区21町地域が見えています。

ここでは、図書館サービスの全域への展開の状況や、全域から中心地2図書館へのアクセス状況を評価する前提となる「居住環境と暮らし」の状況を知る基礎資料を整理します。

地域名	2015年平成27年 (単位:人)		
	総人口	65歳以上人口	高齢化率 (%)
総数	83,990	25,428	30.3
東地区計	41,302	12,411	30.0
東大浦	807	349	43.2
西大浦	1,169	502	42.9
朝来	3,705	1,147	31.0
志楽	5,464	1,421	26.0
与保呂	2,754	1,010	36.7
倉梯	14,122	3,849	27.3
祖母谷	4,078	1,305	32.0
新舞鶴	9,203	2,828	30.7
中地区計	7,742	1,978	25.5
余部上	1,793	722	40.3
余部下	5,949	1,256	21.1
西地区計	31,193	9,363	30.0
旧舞鶴	8,210	2,754	33.5
余内	7,752	2,403	31.0
四所	2,482	821	33.1
高野	2,896	796	27.5
中筋	8,300	1,916	23.1
池内	1,553	673	43.3
加佐地区計	3,753	1,676	44.7
岡田上	725	375	51.7
岡田中	570	272	47.7
岡田下	795	323	40.6
八雲	1,159	483	41.7
神崎	504	223	44.2

資料：舞鶴市統計資料



□21町地域別的人口分布と高齢化

左表は2015年(H27)町別人口分布と高齢化率です。高齢化率は総数で30.3%、特に加佐地区では44.7%となり5つの地域全てで40%を越えています。中でも、「岡田上」は51.7%と最も高く、地域人口の2人に1人以上が65歳以上となっています。また、「新舞鶴」、「旧舞鶴」の市街地においても30%を超えており、交通移動手段の利便性や、中心地駐車場整備、行政や生活支援のアウトリーチサービスが、舞鶴市が目指す「コンパクトシティ」として求められています。

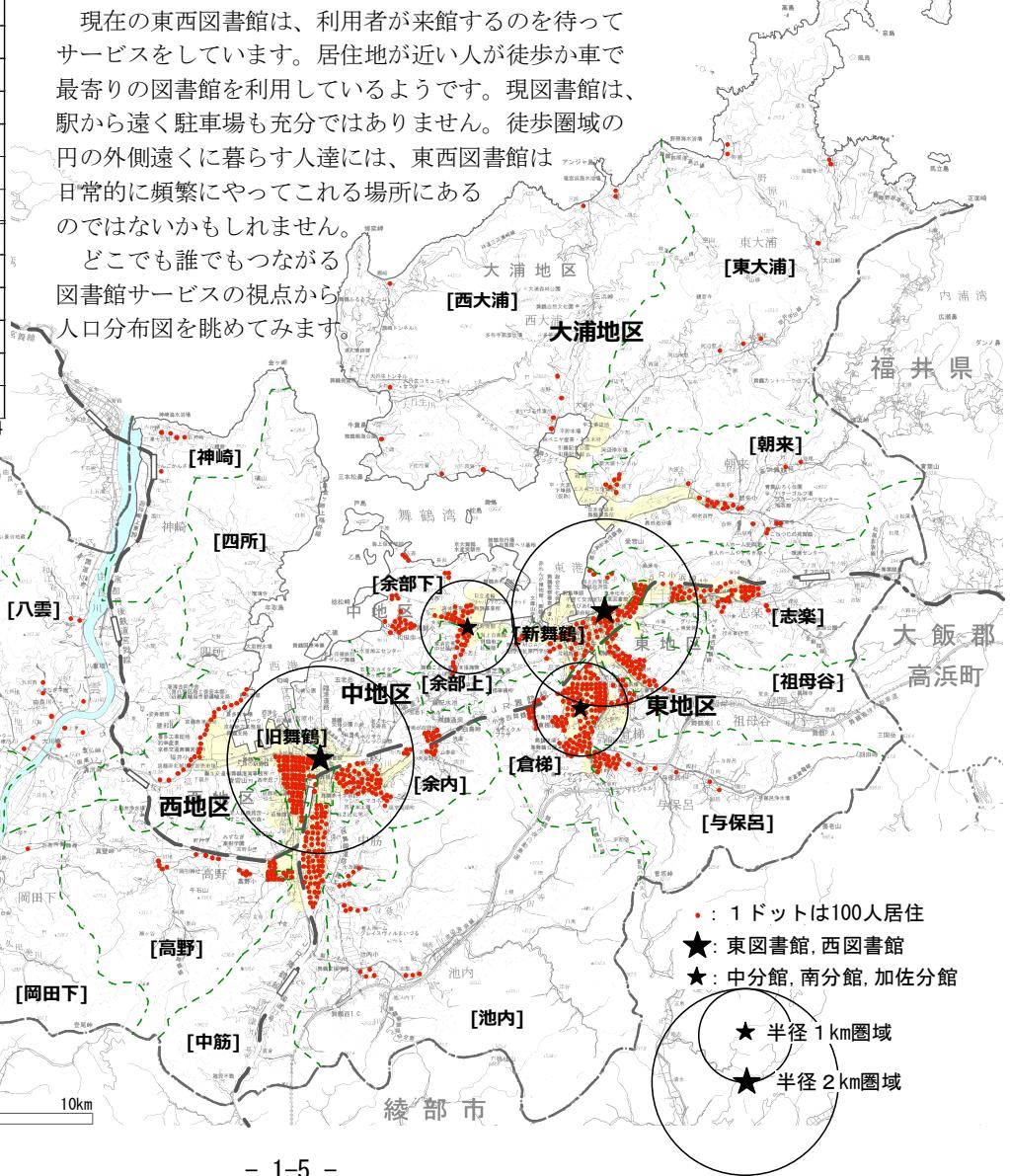
交通移動手段の利便性や、中心地駐車場整備、行政や生活支援のアウトリーチサービスが、舞鶴市が目指す「コンパクトシティ」として求められています。

□地勢、居住分布から現状の図書館配置を考える

下図は人口統計を図案化して、1ドット100人の点を舞鶴市地図に加筆しています。また、東西図書館と分館を配置し、徒歩では少し遠目の2kmの圏域を円で示しています(分館は1km圏域)。

現在の東西図書館は、利用者が来館するのを待ってサービスをしています。居住地が近い人が徒歩か車で最寄りの図書館を利用しているようです。現図書館は、駅から遠く駐車場も充分ではありません。徒歩圏域の円の外側遠くに暮らす人達には、東西図書館は日常的に頻繁にやってこれる場所にあるのではないかかもしれません。

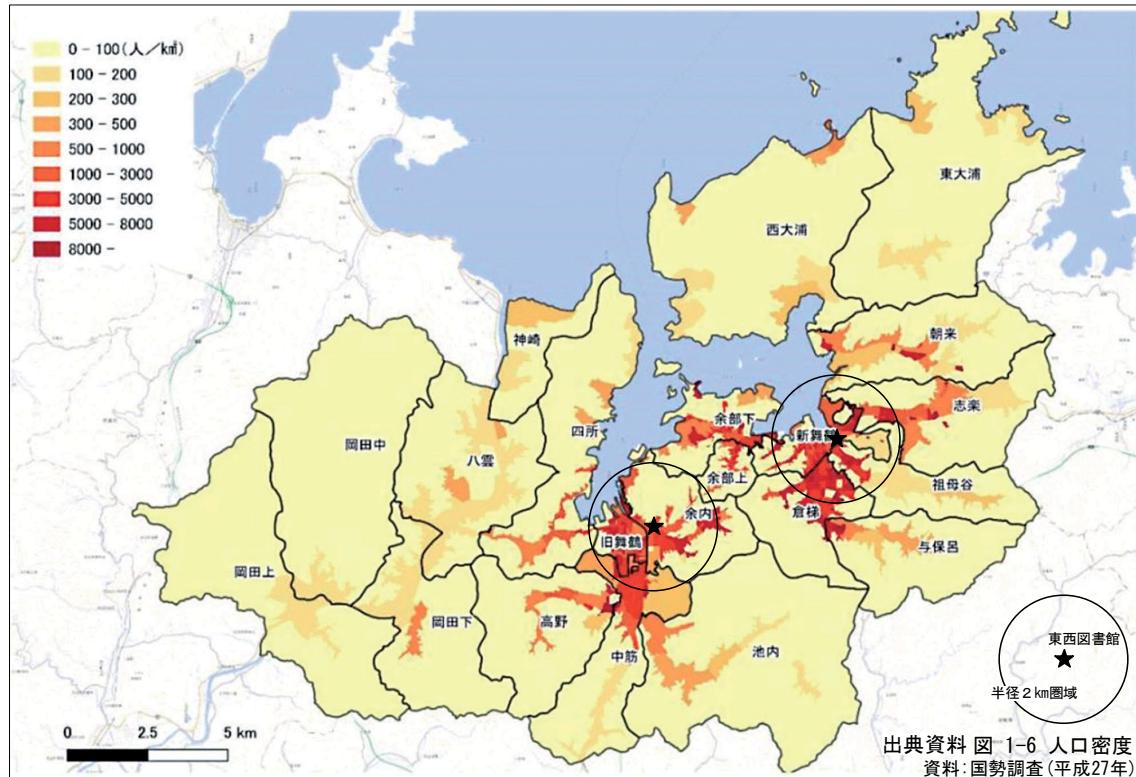
どこでも誰でもつながる図書館サービスの視点から、人口分布図を眺めてみます。



※出典：
舞鶴市地域公共交通計画(令3)

町地域別の人団分布<人口密度>

人口密度と高齢化率を地域別にみると、JR東舞鶴駅・西舞鶴駅周辺及び中舞鶴地区に人口が集中している一方で、周辺部の過疎化・高齢化の傾向が顕著となっています。人口密度の高い町地域の全てを、東西図書館の圏域がカバーできてはいないようです。

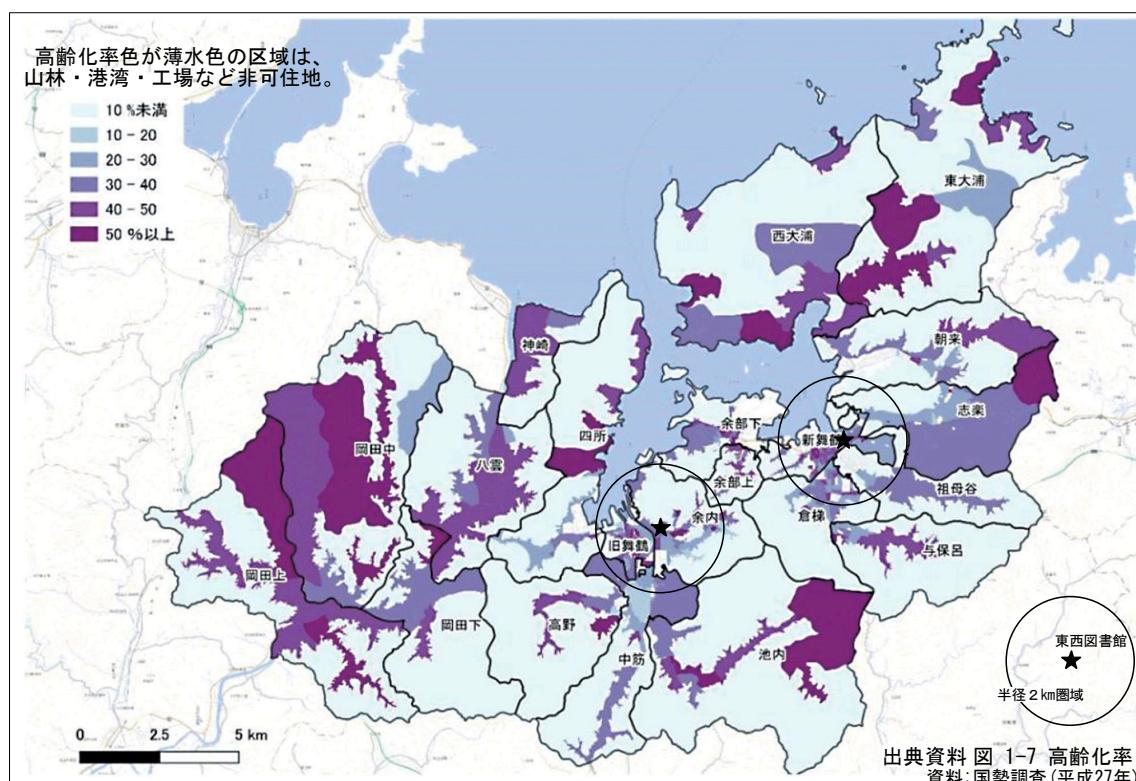


町地域別の人団分布<高齢化率>

高齢化率を地区別にみると、加佐地区44.7%、全地区で40%越え、

町地域別にみると、岡田上51.7%、新舞鶴と旧舞鶴30%越え、になっています。

高齢化率の高い町住区からは、東西図書館は遠いように思われます。



□舞鶴市の総人口の動向は、減少し高齢化する（ターンターン誘導など何も対策がなければ）

舞鶴市の人口及び高齢化率の推移と推計を関連別紙図表で説明します。

国勢調査によると、市の総人口は昭和60(1985)年以降減少に転じ、平成27(2015)年時点で約8.4万人となっています。（令和2年10月の推計人口は7.9万人）

将来予測では、令和12(2030)年の全市総人口は約7.4万人まで減少するとされており、高齢化率も31.6%まで上昇することが見込まれ、今後も人口減少・高齢化が進行していくと（平成30年時点では）予測されています。

□中心市街地の人口密度が高い地域は、将来的に縁辺に移動偏在する

舞鶴市における平成22(2010)年の人口密度（国勢調査）及び 令和22(2040)年での将来人口密度（予測）の推移は、同上の出典資料に示されています。

平成22(2010)年の時点では、西舞鶴駅と東舞鶴駅を中心とする市街化区域内に人口が集中していますが、中心市街地よりも市街化区域の縁辺部の人口密度が高くなっています。

また、西舞鶴・東舞鶴両地区の旧来の中心市街地とは反対側に大型商業施設が立地したこと等により、その後背地でも人口が増加しているものと考えられています。

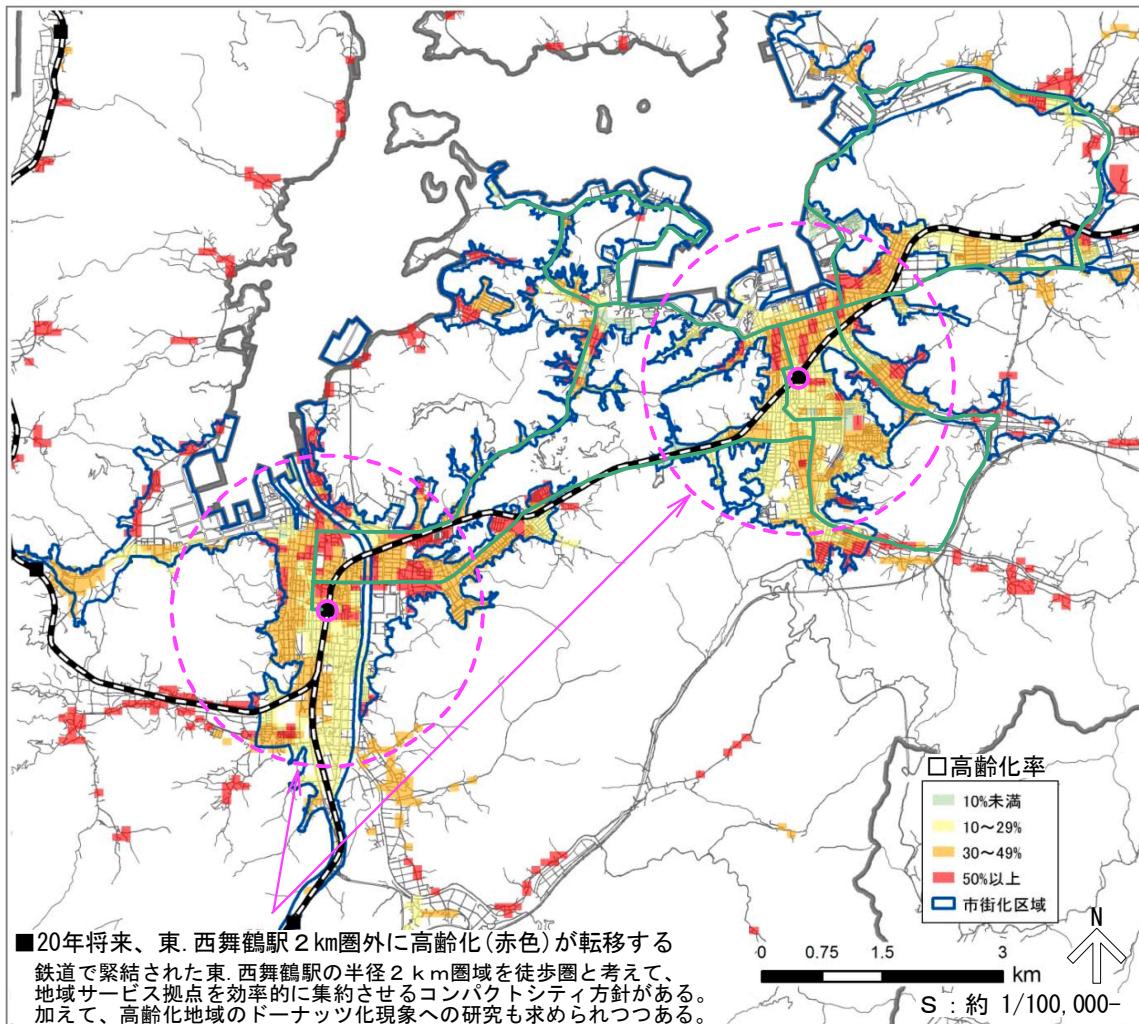
令和22(2040)年時点では、一部の地域を除き市街化区域内全体で「人口密度が低下する」と予測」されており、特に西舞鶴・東舞鶴両地区の旧来の中心市街地ではさらに人口密度が低下することが予測されています。

□中心市街地の高齢化の推移変化

平成22(2010)年からの「令和22(2040)の高齢化（予測）の状況」を下の図に示します。

「中心市街地の高齢化率が高く、駅2km圏外にも偏在し、今後この傾向は進展」しそうです。市街化区域周縁部や市街化区域内においても、高齢化率は一層高まる予測されています。

□20年程将来の中心市街地の居住と高齢化の分布をイメージする



2040年予想図 高齢化率分布（令和22年予測）

※左記文章の出典：

舞鶴市立地適正化計画(平30)
資料編より

※最新将来予測 参考資料：

舞鶴市人口ビジョン(令2年3月)
では、令和2年度以降の数値は、
国立社会保障・人口問題研究所
推計値を用いている。これには
・令和12(2030)年総人口68,587人
・令和17(2035)年総人口63,428人
・令和27(2045)年総人口53,627人
など従前調査を超える人口減少
が予測されている。

※中心市街地では、これまでの
集約的居住の構造が弱まり、
やや外周部の商業施設の立地
に引き寄せられた集約的居住
分布の構造に変化推移してゆく
動向が予測されている。

これらにともない、公共公
益サービスや施設配置の利
用率変化も予想され、施設配
置や利用満足度の動向にも継
続的な留意が必要になる。